

「私たちが宣べ伝えている信仰のことば」

ローマ10：5—13

堀田修一 24・2・25

前節で述べられたキリストが律法の終わり、成就となられたことは、キリストによる新しい救いの契約（律法の行いによる救いではなく、主を信じる信仰による救い）の時代が始まったことを示します。

I 律法による義と主を信じる信仰による救い

1. 「モーセは、律法による義について『律法の掟を行う人は、その掟によって生きる』と書いています」：5。律法の掟を行うことにより、神の義、救い、いのちを得ようとする者は、その掟、律法によって生きて、永遠のいのちを得ることになります。しかし、人間（すべての人の心に罪の性質がある）の中で、誰一人、律法を完全に守ることが出来る人はいないので、だれも、神からの完全ないのち、救い、永遠のいのち、永遠の祝福を自分の力の行いでは得ることが出来ないので、キリストのみが律法を完全に守られた救い主です。感謝します！

2. 「しかし、信仰による義（救い、いのち）はこう言います。『あなたは心の中で、『だれが天に上るのか』と言ってはならない。』それはキリストを引き降ろすことです」：6。「だれが天に上るのか」とは、「だれが自分の力、行いによる業績で、天に上る＝救いを得ることができるのか」という意味。そう言ってはならない。それを実現されたキリストがおられる。その質問は「キリストを引き降ろすことです」＝キリストは、実際に、人々の救いのために、天から降り、完全な人となり、人々の罪のため十字架につけられ律法を成就され、復活し、天に上られたキリストを引き降ろすことになる。

3. 「では、何と言っていますか。『みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。』これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことば（福音）のことです」：8。捕囚の苦しみを味わったイスラエル人のみならず、今やすべての国々の人々の近くに「完全な行いではなく、キリストを信じる信仰により救われる」という「信仰のことば（福音）」は、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にご聖霊が届けられます。感謝ですね。救い、信仰のことば、福音は、私たちが、遠ざけなければ、私たちの届かないところではなく私たちの近くにあり、信仰のことば、救い主ご自身が、私たちの近く、そばにおられます。あなたが今、悩み苦しんでおられても、あなたを愛し、理解し、救い、助けてくださる救い主は、あなたの近く、そばにおられます。主に頼りましょう。

II 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われる

1. 「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し（原語：認める、告白する。口先だけの告白ではなく、真に心で認めて告白する）、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです」：9。「あなたの口でイエスを主と告白し」とある。なぜ「イエスを『救い主』と告白し」ではないのだろうか。それは、イスラエル人も異邦人も、イエス様は、旧約聖書が語る「主」（原語：ヤハウエ。「エホバの証人」が強調されるエホバ。エ

ホバの証人は、御父のみがエホバ、ヤハウエ、神と間違っただけで教えられている。このヤハウエは、神と神の民との密接な関係、救いの契約関係を示す。ヤハウエの意味は、モーセに啓示された「わたしは『わたしはある』という者である」（出エジプト3：14）に表されている。神がご自身の名（本性）を「わたしはある」（ヘブル語：「エヘイエ・アシェル・エヘイエ」と示された。「エヘイエ」の動詞形は「ハーヤー」。ここでは、この意味は「わたしは存在していた」「わたしは存在している」「わたしは存在し続ける」「私は永遠の自存者、不変の絶対的存在」となる。つまり「イエスを主（ヤハウエ）と告白」することは、「イエスは神であり、永遠の昔から存在され、今もともにおられ、永遠に未来まで存在されるお方、真の救い主、私の御主人、主権者（原語：ギリシャ語の意味：主人、ローマ皇帝が主ではなく、イエスこそ主、神、恵みとまことをもって私を支配してくださる主）と認め告白することです。旧約聖書と新約聖書の大切なつながり→「あなたがたの父（イエスラエルの始祖）アブラハムは、わたしの日（救い主・主イエスの誕生、十字架、復活の日）を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを（信仰の目で）見て、喜んだのです。…「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある（ヤハウエ。永遠の自存の神）』なのです』（ヨハネ8：58）。

2. 「あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせた（復活は、全人類の罪の償いとしての主の十字架が神に受け入れられた保証）と信じるなら、あなたは救われる（義認、罪の完全な赦し、神との和解、永遠のいのち、神と永遠に愛の交わりが出来るいのちをいただく）からです」：9。主への信仰と信仰告白を与えて下さるのは、主（ヤハウエ）なるご聖霊→「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言う（信じて告白する）ことはできません」（I コリント12：3）。人は、誰も自分の理解力で「イエスを主」と信じ告白することはできない。真の救いを与えられた父、子、聖霊なる三位一体の神に感謝しましょう！

3. 「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」：10。「義と認められ」と「救われる」は同じ恵みの違った表現。心に主を信じることも口で主を告白することも本質的に同じ信仰的行為であり、義と認められることも救われることも同じ霊的な祝福。人の結婚関係も、相手への信頼と愛があるなら、それをお互いが相手に告白し、伝えるときに結婚に至る関係が始まる。同じように、私たちも主イエスへの信頼と愛を心に秘めておくだけではなく、主の十字架と復活の恵みに感謝し、主への信仰、信頼を主に告白するときに主との生きた関係、信頼関係、霊的結婚の愛と真実な交わりが始まるのです。

Ⅲ 主に信頼する者は失望させられない

1. 「聖書はこう言っています。『この方に信頼する者（主を信じる信仰は、主を信頼する愛の信頼関係に成長していく）は、だれも失望させられることがない。』」：11。「失望させられることがない」=①主を信じ信頼する人は、皆、救われ、地上では、苦しみや試練の中でも主に信頼し頼り支えられ、「慌てふためくことがない」（イザヤ28：16）。主に力づけられ落胆しない。主に信仰の目を向ける。どんな境遇にも対処する力を主は与えられる。※証し。②地上の最後に死を迎えても、絶望、希望のない暗闇、滅び、地獄に行くことは決してなく、確実に主が待っておられる天国に行くことが出来るのです。感謝！

2. 「ユダヤ人とギリシャ人（すべての国の人々）の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かな恵みをお与えになるからです」：12。主の十字架によりユダヤ人と異邦人（すべての民族）の隔ての壁は打ち壊された（エペソ2：14-16）。「神にはえこひいきがないからです」（ローマ2：11）。※現在、神はイスラエルという国を特別扱いはされない。イスラエル人もガザの人々もパレスチナの人々も平等に愛しておられる。一人も滅びないすべての国の人々が救われるのを望んでおられます。和解と共存共栄が実現するように祈りましょう（本日配布の JECA 全国社会委員会資料参照）。キリストは「ご自分を呼び求める（日常生活において祈りと礼拝を捧げ、主と共に生きる）すべての人に豊かな恵みをお与えになる」。あなたにも、私にも。辛く、問題だらけだと落ち込む時、主が与えておられる豊かな恵みを意識的に数え、ノートに記し、一つ一つの恵みを噛みしめ、主に心から感謝しましょう！試練の中におられる主に目を！辛い時も主はいつもあなたとともにおられる。

3. 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです」：13。人は最もつらい時に最も信頼できる人の名を呼びます。「主よ。救って下さい。力、愛を下さい」と祈る私たちを主は救い、力、愛を下さいます！